

お お ぞ ら

No.181

聖隷福祉事業団への法人移管後は64号

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2017年9月1日

「知育園」

横地 健治

当施設には今29名の小児(18歳未満)が入所しており、このうち9名は就学前の幼児です。重症心身障害の成人では、新たな能力の獲得に努めるより、今持っている能力を使って最高の人生経験をしてもらった方がいいと私たちは考えています。しかし、発達期にある小児ではそうは考えません。小児期では、重症心身障害があっても、新たな能力を獲得しうるはずであり、それを使った新しい人生経験はできるはずだと考えています。つまり、その子のまだ開いていない能力を見極め、それを最大限発揮させるようにしなければならぬということです。こうした働きかけの必要度は、全小児期を通じても就学前の幼児でより高いことは異論のないところでしよう。健常児であれば、ヒトの知的機能の基本的な能力は、就学前の年齢で急速に発達するからです。

就学前のその子の潜在的な能力や現在の発達段階は様々であり、この向上のための働きかけは個別的に行われる必要があります。その幼児の持つ潜在的な能力を開発すること、その発達段階をさらに高めるための働き(行為)を私たち職員は求められています。ところで、この行為は何と命名されているのでしょうか。健常幼児に対して思いつく語は「保育」しかありません(「教育」は学齢児に対応しています)。その機能のための組織名は「保育園」です(「幼稚園」にはこの行為を示す意はありません)。この「保育」には、知的機能を伸ばすより、身体発育と安らかな環境を保障するといった語感を私は感じます。このように、古くから使われている日本語には、幼児の機能発達を促す行為を示す語はありません。日本文化では、子どもの能力は自然に育つものであり、伸ばすものはなかったのでしょうか。

最近の日本語では、知的発達を促す語として「知育」があります(私個人の経験では、この語を知ったのは5年ほど前です)。「教育」には、型に於いて育てるような上から視線を私は感じます。これに比べると「知育」は、主役は本人であり、楽しみながら知的機能が向上するのを行為者は手助けするといった語感があります。障害児の知的機能を伸ばす働きかけを「知育」と呼ぶことはしっくりきます。

重症心身障害児が楽しみながら知的機能を伸ばすにはどんなことをしたらいいかを私たちは日々考えています。その時、こうした内容を表す決まった単語がないので、職員の議論は煩雑なものになっていました。そのため、最近私たちの施設では、小児、特に就学前の子たちの知的発達を促す働きかけを「知育」と呼ぶことが定着してきました。その行為は「知育活動」、その行為に介在させる物(例えば、知的発達を促す遊具)は「知育素材」と呼びます。知育は、健常乳幼児の知的発達を促す遊具・アプリで使われる語ですが、重症心身障害の小児の知的発達を促す働きかけを総称するものとして私たちは使っています。

機能が向上するのを行為者は手助けするといった語感がありません。障害児の知的機能を伸ばす働きかけを「知育」と呼ぶことはしっくりきます。

重症心身障害児が楽しみながら知的機能を伸ばすにはどんなことをしたらいいかを私たちは日々考えています。その時、こうした内容を表す決まった単語がないので、職員の議論は煩雑なものになっていました。そのため、最近私たちの施設では、小児、特に就学前の子たちの知的発達を促す働きかけを「知育」と呼ぶことが定着してきました。その行為は「知育活動」、その行為に介在させる物(例えば、知的発達を促す遊具)は「知育素材」と呼びます。知育は、健常乳幼児の知的発達を促す遊具・アプリで使われる語ですが、重症心身障害の小児の知的発達を促す働きかけを総称するものとして私たちは使っています。

重症心身障害児の知的発達を促す行為に「知育」の名を付与することにより、この働きかけをさらに実りあるものにしていきたいと考えています。

